団委員研修所
「課題研修」支援の手引き

公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

目　次

１．本書について １

２．コミッショナーの支援について １

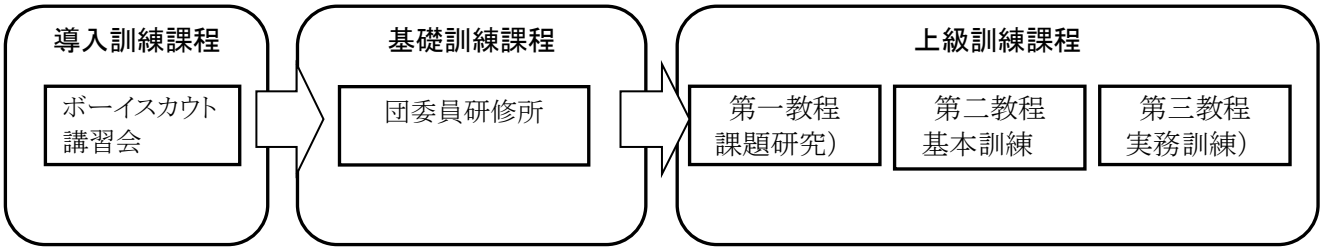
３．［課題研修］履修までの流れ ４

４．［課題研修］課題の支援のポイント ５

課題研修提出用紙 ７

１．本書について

指導者養成体制では、成人指導者の養成は任務中の支援（インサービスサポート）を中心に行い、定型訓練もその支援の中の一つとして、全国共通の要素を学ぶ場として位置づけています。この中で、団委員研修のあり方も見直されました。スカウトを育成する単位は「団」であり、この「団（団委員会）」がその責任において隊指導者を育成していくのです。そのため、団委員（長）の支援を充実させるために、団委員の訓練体系（組み立て）を大きく見直しました。新たに上級訓練課程を加え、導入訓練、基礎訓練課程（団委員研修所）、上級訓練課程（団委員実修所：第一教程（課題研究）・第二教程（基本訓練）・第三教程（実務訓練））の段階的な訓練で構成されています。



本書は、その改訂を受け参加者への課題研修「課題」への取り組みに対する支援についての考え方を示すものです。

団委員研修所「課題研修」の認定はトレーナーが行いますが、任務中の支援の一部であることを考えますと、コミッショナーの皆様の支援が何よりも重要であることは言うまでもありません。

団委員研修所の「課題研修」の設定には、次のねらいがあります。

① 参加意欲を高め、参加に向けた心構えを整える。
② 団委員研修所を効果的に学習できるようにする。
③ コミッショナー、トレーナーおよび先輩指導者との交流の機会となる。
④ 自己研修の促進をはかる。

この課題研修のねらいが達成され、団委員（長）が積極的に団委員研修所に参加し、研修の効果を充分に上げるためには、「課題研修」に取り組む団委員（長）を画一的に扱うのではなく、一人ひとりの経歴や、その背景（参加の動機、団の現状、隊の現状、参加者の役割、団委員（長）経験、スカウト経験等）を十分に理解したうえで、最適な助言と支援を行うことであることは言うまでもありません。

これらを踏まえ、団委員（長）の「課題研修」への取り組みが、トレーナーの支援を受けながら効果的に進むように、コミッショナーの皆様が参加者の「支援の一助」となるよう、本書を作成いたしましたので、ご活用ください。

２．コミッショナーの支援について

コミッショナーとして、団委員研修所参加希望者の「課題研修」を支援する取り組みを整理すると、以下の事項が挙げられます。

① 団委員（長）に対して「課題研修」に取り組み易い環境づくりを行う。
② 「課題研修」に取り組む団委員（長）とのコミュニケーションをはかる。
③ 「課題研修」に取り組む指導者を支援する担当者を、団の状況を加味しながら選任する。
④ 最終的な「課題研修」の履修認定はトレーナーであるため、トレーナーの選任と支援依頼をする。密な情報交換と進捗状況の確認が必要となる。
⑤ 団委員研修所履修後、当該者から報告を受け、学習で得たものを自団の活動で実践することを促す。

①　団委員（長）に対して「課題研修」に取り組み易い環境づくりを行う。

特にスカウト経験がない団委員（長）で、ボーイスカウト講習会を修了されたばかりの方などは、さらに上級コースへの取り組みなどとは言っても、しり込みや不安があるものです。団委員研修所への参加がなぜ必要なのか、またその研修の内容は何かを的確に伝え、理解を得る事が大切です。その上で支援者としてのコミッショナーがいることをもう一度認識してもらう必要があります。支援を行う上でいつなら都合がよいのか、連絡先はどこなのか等をはっきりと伝えて、**「いつでも一緒に取り組む事ができる」という姿勢**をアピールすることが肝心です。また、地区内の指導者養成関連委員会（アダルトリソーシス委員会など）、県連盟トレーニングチーム、そしてなによりも団の協力を得ながら参加希望者が「課題研修」に容易に取り組むことができる環境を作って行くことが大切です。

②　「課題研修」に取り組む団委員（長）とのコミュニケーションをはかる。

団委員（長）の資質を向上し、各種訓練への参加を奨励することは、コミッショナーの重要な責務の一つです。そのためには、一人でも多くの団委員（長）とまず出会うことが大切です。この「課題研修」は、**団委員（長）との出会いとコミュニケーションをはかる場**として活用することには大変有効です。

話し合いや文書の交換、電話でのやりとり等方法は幾通りも考えられますが、コミュニケーションを確かなものにし、今後のかかわりやサービスを考えると、直接会って話し合う機会を設けることが望まれます。むしろコミッショナーが積極的にコミュニケーションを深める機会を設けることが必要ではないでしょうか。この機会を設け、課題研修への取組みを積極的に利用して欲しいものです。

③　「課題研修」を履修する団委員（長）に対して、支援の担当者を選任する。

「課題研修」に取り組む指導者に対して、個別に支援する人を選任することは大変重要です。団内で支援ができるのか。また、「課題研修」の履修認定がトレーナーとなりましたので、**トレーナーに支援依頼をする**ことが必要となってきます。取り組む人にとって人間関係を含めた、最も相応しい支援者を人選することが大切です。

課題研修への取り組みの過程で、団委員研修所への参加意欲を高め、参加への心構えを整えるためには、課題そのものへの取り組みも必要ですが、課題以外のこと（研修所の日程や準備物、過去の参加者の体験や資料提供など）が非常に重要です。また、コミッショナーとしての期待と励ましを明確に伝えることも効果的です。「団関係者に勧められたから」という理由も参加の動機としてはありますが、自ら「行ってみよう」という気持ちを持って参加すれば、団委員研修所での学習効果の向上が期待できるのは言うまでもありません。

従って課題研修課題の履修認定にあたっては、単に、課題の内容ができている／できていないといった判断（熟読したかどうかの確認）だけではなく、疑問な部分や、わからないことが明らかになり、その結果参加への意欲が十分に高まったかどうか、更に参加に必要な情報が十分に伝わったかどうか、参加に向けての準備が自らできるような状態になったかどうかをよく見極めて頂くことが大切です。個々の課題の支援のポイントについては後述します。

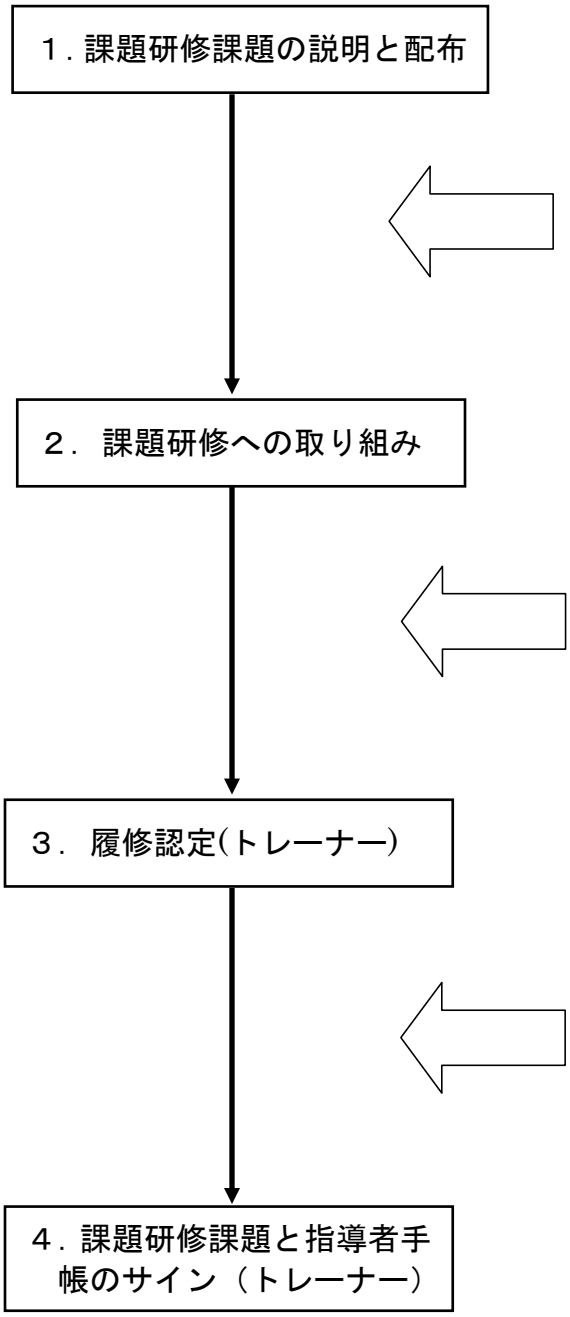
④　団委員研修所履修後、当該者から報告を受け、学習で得たものを自団の活動で実践することを促す。

団委員研修所を履修したら、研修所履修の報告をコミッショナーにするよう指導し、課題研修や団委員研修所で気がついたことをコミッショナーとして把握するようにしてください。これらの情報をコミッショナーやトレーニングチームの研究集会等で交換しあい、トレーニングがより良い方向に進むように努力しましょう。

また、団委員研修所で得たことを実際の活動にどうのように反映していくのか、これからの活動への取り組みに関しての話し合いを持ち、**「新たなスタート地点に立った」ことを一緒に確認する**ことも大変有意義なことでしょう。

更に、役割を果していくには継続的な研修が大切であることを助言し、今後その機会が団内や県連盟内や地区内でどのように提供されるかを周知するとともに、必要な時にはいつでも相談や支援ができる環境があること（インサービス・サポート）を伝えることもコミッショナーとしての重要な役割と言えます。

３．［課題研修］履修までの流れ



履修希望者に課題を配布する際には、課題研修のねらいと、各課題の意図するところを説明し、取り組みにあたっての支援の体制（担当するコミッショナーやトレーナーなど）を明らかにすることが望ましいでしょう。支援の体制と、取り組みのポイントを伝えることで、課題研修履修へのモチベーションが向上するように配慮することが大切です。

履修希望者が課題に取り組んでいる間、疑問などが発生した場合などに、具体的に誰がどのような支援を行うのか、個々の履修希望者への個別支援体制を明確にしておきます。

各課題は、最終的にトレーナーが履修認定することを考えると、担当のトレーナーが通して支援することが望ましいでしょう。トレーナー以外の方にお願いする場合は、コミッショナーは指導のポイントを事前に伝えておくようにします。その場合も履修認定はトレーナーが行うことに変わりはありませんから、支援者とトレーナーがしっかりと連携をとれるようにしてください。

４．「課題研修」課題の支援のポイントとまとめ方

団委員研修所「課題研修」課題は、すべて「熟読してください」となっています。文字通り熟読をすればよいのですが、参加者の経歴や環境によっては理解しにくいことも考えられますので、読むようにと伝えるだけではなく、熟読後に是非参加者と話し合いをしていただき、一緒に内容を振り返ってください。また、読むだけではなく記録にとどめておくことにより、参加者の団委員研修所での学びを深めることができると思われます。是非自分の為に簡単でよいので記録を取って研修に参加されることをご指導ください。

(1) 課題１

日本連盟発行「団の運営と団委員会」及び「追補資料（令和 5 年 8 月 31 日発行）」を熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

【支援のポイント】

本書の冒頭でも述べましたように、訓練体系における団委員研修所は、団運営の実務面にポイントを置いた訓練です。団委員（会）が行うべき日常業務の基本的な方法や考え方を学び、団の周辺組織の役割と機能などに焦点を当てた内容となっており、参加者が研修を終えて団に帰ったら、実際にどう行ったらよいのか、具体的に学ぶ研修となっています。

参加者によっては、団委員になって時間が経っていない方もあると思います。また、団によっては「団の運営と団委員会」に記述されている方法や手順の通りではないといったケースも多々見られることと思います。しかしながら、団はスカウトを育成する最大の単位であり、スカウト運動の目的を達成するための重要な組織です。書籍「団の運営と団委員会」では、「団委員会」に視点をおき、団の運営に必要な事柄の標準が記述されています。団委員研修所は、この「団の運営と団委員会」をもとに学習を行います。是非、本研修での学び・理解が深まるように、団の運営に関する団委員会の役目と責務について是非一緒に確認をして下さい。

＜まとめ方＞

団委員研修所での学び・理解を深めるために、各章ごとに気づいたこと、あるいは支援者と話し合った内容やその後の感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

（2）課題２

日本連盟教育規程「第１章　一般原則」、「第２章　加盟登録」、「第３章　団」「第４章　都道府県連盟」、「第５章　地区」、「第７章　教育の方法（７－３３～７－４３）を熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

【支援のポイント】

この課題は、日本連盟教育規程の中で、団の運営に関わる部分の熟読となっています。本運動に関わるものとして、参加者の皆さんには内容を正しく理解し、受容していただくことが必要です。面談（話し合い）をしていただき、参加者の方が正しく理解したかどうかを確認してください。

指導者養成体制では、成人指導者個々にあった支援と研修を継続的に提供するために、任務中の支援（インサービスサポート）を中心とした指導者養成システムとなっています。団内の成人指導者の任命から選任、養成、解任といった指導者のライフサイクルから、スカウトの教育に関することまで、団が責任をもって行い、団内では難しい、解決できない問題については団を取り巻く組織から支援をしてもらうという考え方です。その際に、団の周辺にどのような組織（都道府県連盟・地区など）があり、どのような任務を負っており、団に対してどんなサービスが提供

できるのかを知ることが大切です。都道府県連盟や地区は団にとって身近な存在であり、団を活性させるために意見を述べたり、相談をしたり、支援を受けることのできる存在であることをお話ください。

また、団委員会には各隊がプログラム活動を推進していく上での様々な支援も求められます。特にスカウトの進歩については、団としてスカウトを認め、活動への励みにつなげていくことが必要です。そのために、「第７章　教育の方法（７－３３～７－４３）」の理解を求めています。

＜まとめ方＞

熟読後、支援者と話し合った内容やその後の感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

（3）課題３

ボーイスカウト隊リーダーハンドブック（２０２６年３月１９日改定版）の「８章　隊指導者」、「９章　隊の運営」、「１０章　隊を支える人と組織」を熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

【支援のポイント】

課題２の支援のポイントでも述べましたが、団委員会には各隊がプログラム活動を推進していく上で様々な支援が求められます。そのために、隊指導者の役割や責務、隊指導者に求められる知識や技能、各隊の運営などについて理解しておくことが、各隊への的確な支援につながります。しかしながら、全ての部門について一度に課題研修を行うことは大変でしょうから、「ボーイスカウト隊リーダーハンドブック」の該当する章を読んで頂き、隊指導者がどのように活動を行っているのかの概要を理解し、団の運営に携わる団委員会と、各隊指導者がどのように関わりを持っていくのかを一緒に確認してください。

スカウトの成長のためには、各隊のプログラム活動が正しく、そして楽しく行われことが必要です。隊の運営は隊指導者だけに任せればよいのではなく、団委員会は各隊の活動を支援し、活性化し、永続させる責任があります。これらを果たすことでよりスカウトの成長に寄与することができます。隊指導者に任せっきりになっていないか、参加者の団委員会や団会議の状況などを聞きながら支援ください。

最後に、研修所参加が初めての指導者には、会場までの交通手段や施設、気候に応じた持ち物や研修所での生活についての情報を伝えて、不必要な緊張や、不安を抱かないようにご配慮下さい。

＜まとめ方＞

熟読後、支援者と話し合った内容やその後の感想を、指定の課題研修まとめ用紙に記述させてください。

課題研修提出用紙

団委員研修所「課題研修」

提出日：　　年　　月　　日

ふりがな		性別	男 ・ 女
氏　名			
住　所	（〒　　－　　） 電話（　　）　－		
生年月日	昭和・平成　　年　　月　　日生　（満　　歳　　月）		
所　属	……連盟（……地区）……第……団……隊 役務 ……		
登録番号	（登録証の番号）		

課題研修	指導を受けた人	
	氏　名	氏　名
課題１ 日本連盟発行書籍「団の運営と団委員会」及び「追補資料（令和５年８月 31 日発行)」を熟読し、指導を受けた内容を記述してください。		
課題２ 日本連盟教育規程　「第１章　一般原則」、「第２章　加盟登録」、「第３章　団」、「第４章　都道府県連盟」「第５章　地区」、「第７章　教育の方法(7－33～7－43)」を熟読し、指導を受けた内容を記述してください。		
課題３ ボーイスカウト隊リーダーハンドブック（２０２６年３月１９日改定版）の「８章　隊指導者」、「９章　隊の運営」、「１０章　隊を支える人と組織」を熟読し、指導を受けた内容を記述してください。		

課題研修を履修したことを認定します。

年　　月　　日

認定トレーナー署名（ＬＴ・ＡＬＴ）（氏名）

「課題研修まとめ用紙」

氏名：

課題１	・指導やアドバイスの内容
	・指導後の感想

課題２	・指導やアドバイスの内容
	・指導後の感想
課題３	・指導やアドバイスの内容
	・指導後の感想

※課題について指導を受けた内容と感想を記述し、申込書と一緒にご提出ください。

団委員研修所「課題研修」支援の手引き

平成３１年２月　発行
令和　８年９月　修正

日本連盟トレーニングチーム　編

発行　公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN